

セミナールーム十訓より一「自分自身の甘さに負けるな」

当塾教室の正面の壁に貼ってある「自分に負けるな！！」の文字。塾生諸君は授業のたびに目にしていることと思います。セミナールーム十訓の一つでもあるこの言葉は、当塾を開業した主人が、当初より塾生に対して日々言っていた言葉です。主人の言葉をそのまま掲載します。

“受験勉強にはライバルがいる。一番手強いライバルは他人ではない。自分自身を甘やかしてしまう自分なのである。「このくらいでいいだろう。」「明日からやればいいや。」「自分としては一生懸命やっているつもりだし。」などなど。あげればきりが無い。

ときには甘やかしていいときもあろう。ただ、いつもそうでは問題である。何か事をしようとしてうまくいかなかったとき、すぐだれかのせいにしようとする人がいるが、そう考えること自身が自分の甘さに負けているのだ。負けるな、とは言っているが、余程自覚している人でもおそらく10回のうち5回はまず負けてしまう。私もよく負けている。どこで踏みとどまれるか、それがためされているのだ。”

主人は、周りからは自分に負けることなど全くないように見える人でした。仕事には一切妥協せず、自分に厳しく、それができているがゆえに自分に甘い塾生のことは叱り飛ばしていました。

主人が癌で亡くなったのが2006年12月3日。この前夜、救急車で運ばれる直前まで、主人は私にコンピューター操作を教え、ろくに覚えられない私を全力で叱ってくれていました。「おまえは自分ができなくてもどこかで拓哉に助けてもらえると思っている！だからいつまでたってもできないんだ！！」と。癌による呼吸不全で息もろくに出来ない中での大声でした。自分でも知らず知らずのうちに息子に頼っていた・・・そんな私の甘さを見抜き、命がけて叱ってくれたのです。

以来9年間、「自分自身の甘さに負けるな」は、私自身主人からいただいた言葉として常に自分にも言い聞かせながら塾生に伝えていました。負けそうになったり、実際に負けてしまうことも多々ありましたが、どうしても譲ってはならないところでは、息子たちはじめ周りの方々の温かい助けもあり踏みとどまることができました。今年はじめから書かせていただいています「セミナールーム十訓の解説」ですが、主人の命日にこの言葉の順番が巡ってきたところに不思議な縁を感じます。「塾は10年間は続ける。」と主人に言われた10年目に入ります。

塾生諸君、お互い自分自身の甘さに負けないように頑張りましょう！